



(仮称) 熱海フォーラム

熱海市長 齊藤 栄

昨年4月、熱海市役所に隣接する約1000坪の土地を取得することができました。建物が密集する市街地の中心部にこれだけの広さの土地を得られたことは、千載一遇のチャンスだったと思います。私はこの土地を、世代を越えた「市民の集う場」にしたいと考え、そのための具体的な機能として2つを挙げました。

1つ目は「ホール」です。新たなホールの建設は、平成23年3月に耐震性の問題により観光会館が閉鎖されてからの課題です。私は、市民の皆さんがさまざまな活動をするにあたって使い勝手が良く、満足度の高いホールが市内に必要であると考えています。その結果として、利用頻度の高いホールとなることを望んでいます。

もう1つは「図書館」です。先月、熱海市立図書館が創立100周年を迎えました。坪内逍遙先生の図書の寄贈からスタートした歴史ある図書館です。熱海の大切な知の財産をしつかりと未来へ継承するとともに、熱海発展の歴史などを分かりやすく展示していきたいと考えます。

この2つの機能を中心とした複合施設を、仮に「熱海フォーラム」と呼び、市民ワークショップなどを開いてさまざまな観点から意見を聞いていきます。敷地面積や事業費などの制約がありますが、利用者の満足度を高めるため、どのようなホールや図書館を作るべきか、将来に過度な財政負担を強くないため、どのような手法で建設や運営をすべきかについて、さらに議論を深めていきます。



## ソーラン節

熱海市長 齊藤 栄

長年にわたり熱海市の発展に寄与されてきた高齢者の皆さんに感謝の意を表すために「敬老大会」を開催しています。私も高齢者の皆さんと過ごす時間を楽しみにしており、余興の披露もしています。これまでジャズの演奏に合わせて「お嫁においで」を歌ったり、「上を向いて歩こう」を歌いながら保育園児と踊ったりしましたが、今年は皆さんと一緒に歌える民謡「ソーラン節」に挑戦しました。

ソーラン節はニシン漁を歌った北海道の有名な民謡ですが、民謡を歌った経験がなかった私は、牛追い会の紺野公也先生のところに数回通い特訓をしていただきました。民謡の節回しに慣れていないこともあって、三味線の伴奏に合わせて歌おうにもなかなか声が出ず、「もっとお腹に力を入れて」と指導されました。敬老大会の開催日が迫るなか、録音したテープを何度も聞き、自宅の居間やお風呂場で毎晩繰り返し練習を行いました。

当日は、妻が揃えてくれた黒紋付と袴の正装で舞台上がりました。着物姿は一人前ですが、なにぶんにはわか仕込みの歌い手なので、舞台ではとても緊張しました。一日目は歌詞が一瞬出てこないというハプニングもありましたが、二日目は紺野先生や演奏者の方々にサポートしていただき、気持ちを込めて歌うことができました。

「エン・ヤーレン、ソーラン、ソーラン」、歌い終わった後には皆さんから盛大な拍手をいただき、私も嬉しくなりました。また皆さんと会えることを楽しみにしています。

# 市長メッセージ 93



## チーム熱海で満足度アップ！

熱海市長 齊藤 栄

今年の夏は、市内海水浴客が昨年比25%増、シルバークロウも初島航路の乗船客数が今夏の最多記録を塗り替え、熱海駅前商店街は閉店時間を遅らせるなど大きな賑わいを見せました。

しかしながら、私には大きな不安もあります。お客様は常に熱海を厳しく値踏みしています。もし、「評判ほどでもなかった」「期待外れだった」と思われれば、また少しでも熱海で何か不愉快な思いをすれば、二度と見向きもしてくれません。熱海は今、正念場にいるのだらうと思っています。「日本でナンバーワンの温泉観光地」を目指して、熱海が一段上の観光地になるため、さらにお客様の満足度を上げていかなければなりません。

行政は道路や歩道などのインフラ整備や、熱海市全体のPR（シティプロモーション）といった、行政にしかできないことを責任を持って行います。そして市民の皆さんには、熱海にいらしたお客様の満足度を上げるためのお手伝いをぜひしてほしいのです。何も特別なことをするのではなく、ご自身の持ち場で少しご協力いただければ十分です。例えば、お客様に接する方であれば、普段のサービースに加えて、熱海のイベント情報や、熱海の住人だけが知っている絶景ポイントを教えてあげる、お客様に接する機会が無い方は、家やお店の周辺を掃除して、お客様に気持ち良く過ごしてもらおうといったことなどです。

熱海の持つ素晴らしい景観、食の美味しさ、温泉文化などを、お客様に心から満喫していただけるように、そして熱海のファンになっていただけるように、市民が一丸となって、「チーム熱海」で力を合わせていきたいと思います。



## 戦後70年

熱海市長 齊藤 栄

今年には日本が敗戦してから、ちょうど70年目に当たります。例年以上に、先の大戦に思いをめぐらす機会があったように思います。

先日、人間魚雷「海龍」<sup>かいりゅう</sup>が下田港沖の海底で新たに見つかったという新聞記事を読みました。過去に熱海市網代の沖でも海龍が発見されたことがあります。太平洋戦争の末期、米艦隊が東京に襲撃することを想定し、伊豆半島を前線基地化する構想があったのだそうです。終戦により、海龍は実戦に大規模には投入されませんでした。しかし本土決戦になっていたら、この伊豆で多くの若者が特攻隊員として命を散らしていたかもしれせん。

また、熱海市のある人から、子どもの頃、市内で米軍の戦闘機に追いかけられ本当に恐ろしい思いをした、操縦士の顔がはっきり見えたという話を聞いたことがあります。

私の妻の母親は二十歳の時に外地で終戦を迎えました。妻が幼少の頃から、折に触れて機銃掃射や引き揚げの話をしたそうです。妻にとって戦争の記憶は自分の母親からごく自然に受け継いだものです。一方、私の両親はもっと下の世代のため、両親の戦争体験については大変ひもじい思いをしたこと以外はあまり聞いたことがありません。このため、戦争中にどのようなことが行われていたのか、そして、なぜこの戦争が起き、なぜもっと早く終結できなかったのかについて私自身が自分の言葉で語れるように、先の大戦に対する理解を意識して深めていかねばならないと考えています。

戦争を知らない世代の皆さんにも、戦後70年の節目に「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」について今一度考えていただきたいと思います。



## 田邊前副市長の帰任

熱海市長 齊藤 栄

6月30日、田邊たなべ国治前副市長が4年の任期を終え、出向元の経済産業省へ帰任しました。当日は、多くの市職員、市議会議員、市民の皆さんに市役所の玄関で見送られ、抱えきれないほどの花束を抱えた彼の姿に私も感動しました。

副市長は市職員を束ねる事務方のトップであり、市長の片腕となる重要な役職です。

田邊さんは副市長としては33歳という全国最年少級の若さで、しかも熱海という新たな土地での就任。苦勞が多かったと思いますが、多くの実績をあげてくれました。

年間100件を超えるロケ誘致を成功させている「ADさんいらっしやい」や、事業者に新商品開発・販路拡大などのビジネス支援を行うA・i・b・i・z（エービズ）などは彼の力がなければ実現しなかったでしょう。心から感謝しています。

そして、何より最大の功績は「挑戦する文化」を熱海市役所に持ち込んでくれたことです。これは経済産業省が持っている文化であり、行政も常に新しいことにチャレンジし、まず一步を踏み出そう、走りながら考えようという姿勢です。職員の模範となるよう、先頭に立ってこの姿勢を貫いてくれました。

7月1日、新たな副市長として森本もりもと要さんが就任しました。再び経済産業省からの出向で、千葉市出身の36歳、市役所などの基礎自治体での勤務を希望していました。熱海市には人口減少をはじめ多くの課題があります。新副市長と二人三脚で、引き続き新たな挑戦をしてまいります。



## 台湾でのトップセールス

熱海市長 齊藤 栄

5月下旬に台湾で行われた台北国際観光博覧会で、伊豆半島の魅力をプロモーションし、伊豆半島への誘客を図ることを目的に「美しい伊豆創造センター」加盟市町12人の首長（市長および町長）でトップセールスに行ってきました。

台北国際観光博覧会の会場は、ラッシュエアワーを思わせる混雑ぶりで、国際観光への意識の高さを感じました。特に20代の若者が多く来場していたように見受けられ、台湾の国際観光に対するエネルギーを感じました。

台湾は今、経済成長が目覚ましく、人口約2300万人の半分が海外旅行をしています。世界ジオパークを目指す伊豆半島にとっても巨大なマーケットとなる可能性を持っていますので、今回のトップセールスの役割は重要です。

また、博覧会2日目には、各市町が3分間のプレゼンテーションを行いました。熱海市は、花火大会・芸妓の舞・梅園・街の全景を映像を使って紹介してきました。特に花火大会を観光の目玉に紹介したのは熱海だけでしたので、台湾の人たちに和食（海の幸）と並んで興味を持っていただきました。

「伊豆はひとつ」を具体的に進めていくための「美しい伊豆創造センター」は、この4月に設立された組織です。2020年の東京五輪を目標に、伊豆の首長たちと、伊豆全体を盛り上げていきます。



## 投票率

熱海市長 齊藤 栄

熱海市ではこの4月に統一地方選挙として、県議会議員、市議会議員の選挙が行われました。気になるのは、それぞれの投票率が49・26%、56・06%と大変低かったことです。これは熱海市に限らず全国的な傾向のようですが、私は選挙というのは市民の意思を政治に反映させる大切なプロセスだと考えているので、政治に対する意識が低くなっているのではないかと、とても危惧しています。

投票率を上げるためには、地方議会に関心を持ってもらうことが大切です。以前、熱海市でも「子ども議会」が行われましたが、市民にとって市議会とは何をするとところなのかを知る良い機会であり、参加した小・中学生はその体験を一生覚えていくことでしよう。

また、行政としてもできることを考えなければなりません。例えば投票しやすい環境を整えることです。熱海市では高齢化が進んでいるため、投票所までの距離や階段の有無などが投票率に影響すると推察されます。また、期日前投票を充実させることも投票率アップにつながるかと考えられます。各地区にあるそれぞれ投票所について、今回の選挙結果を詳しく分析し対応策を考えたいと思います。

私は地方自治の基本は「自分たちのまちは自分たちがつくる」ことだと考えていますが、自分たちの代表を決めるのが選挙です。行政も努力を行うとともに、市民の皆さんにも政治に関心を持ってもらいたいと思います。



## 県立熱海高校

熱海市長 齊藤 栄

熱海市内には唯一の高校「県立熱海高校」があります。「ビジネス」や「福祉」といった特色ある教育プログラムがあるだけでなく、ヨット部、陸上部、報道部などの部活動の活躍は全国レベルです。しかし、近年志願者が減少しており、市としても本格的に熱海高校の魅力向上に力を入れています。

その一つは高校の通学路となる「さくらの名所散策路」の整備です。昨年からの工事を再開し、平成28年度中の完成を目指しています。この通学路は「絶景」という言葉がぴったりの遊歩道です。長浜海岸を眼下に望み、地元の観光振興、防災にも寄与することが期待されます。

もう一つは静岡県、熱海市、産業界、地域の関係者からなる懇話会の設置です。「県立高校だから県の問題」ではありません。「熱海高校をより良くするには」を目標に関係者が皆で議論し、できることから実践しています。全国でも珍しい取り組みです。例えばこの3月に、熱海商工会議所が熱海高校の2年生を対象にした地元企業見学会を初めて開催しました。熱海高校に行けば、地元の企業に必ず就職できるといふようになれば若年層の人口流出に歯止めがかけられます。

新年度から法律が変わって、市長がより深く教育に関われるようになり、「福祉」や「産業」分野と「教育」との連携が可能となります。教育委員会と市長部局がしっかりと連携して、教育の課題に取り組んでまいります。



## 春の記録

熱海市長 齊藤 栄

この春は天候にも恵まれ、多くの来遊客に熱海を訪れていただいた結果、二つの記録を達成しました。

一つ目は、梅まつり期間中の入館者数が20万人を突破したことです。5年前（平成23年）に梅園の有料化を始めてから最高の数字となりました。今年は花付きもさらに良くなって、お客様の満足度も高かったのではないかと感じます。梅まつり期間中、大変寒い中ご協力いただいたスタッフ、そしてボランティアの皆さんに心から感謝を申し上げます。一方で梅園周辺のひどい交通渋滞や入園に時間がかかるなどの問題も生じました。これは多くのお客様が訪れたことによるうれしい悲鳴ではありますが、来年に向けてしっかりと対策を立ててまいります。

二つ目は、起雲閣の年間有料入館者数が10万人を超えたことです。14年前（平成12年）の開館以来、10万人を超えたのは初めてのことです。特筆すべきは、単に入館者数だけでなく、来館者の満足度も非常に高いという点です。起雲閣は開館当初から市が直営で運営してきましたが、平成24年度から3年間は地元的女性NPOが運営してきました。私はこのような実績が「市民参画」によって成し遂げられている点に大きな意味があると考えています。

梅園、起雲閣におけるこれらの成果は、行政と観光業界そして市民の協働によるものです。今後、この協働をさらに前に進めていきます。



糸川のあたま桜

熱海市長 齊藤 栄

先日、3週間の「糸川桜まつり」が無事終了しました。トリは糸川ベンチャーズで、いかしたライブに来遊客が大いに盛り上がりました。

この糸川桜まつりも今年で5回目となります。梅園と糸川をつなぐシャトルタクシーやバスの効果もあり、「梅園の梅」と「糸川のあたま桜」が定着してきました。「熱海の食」も大きな魅力で、あたま桜の下で、どこのお店にしようかと、来遊客が案内板でお店をあれこれと物色しているようすはいかにも楽しげでした。

9年前、私が初めて見た糸川のあたま桜は枝ぶりがゴツゴツしていて、枝をすっと伸ばす都会的なソメイヨシノに比べて、伊豆の田舎娘といった印象でした。しかし、糸川遊歩道の整備から5年経ち、花つきも枝ぶりも良くなって、すっかり器量良しになっていて驚きました。まるで、デビュー時は少し野暮ったかった新人アイドルが、人気が出るにつれて洗練され、垢抜けてくるといった感じです。

早朝の糸川で、あたま桜の花びらを丁寧に拾い集めているご婦人を見掛けました。ご主人とおほしき方も熱心にあたま桜を眺めています。どうやら中国の方のようで、春節のお休みで日本を訪れたのでしょうか。早咲きのあたま桜が、日本の思い出を彩ってほしいと思いました。

糸川のあたま桜が毎年きれいに咲いてくれるのは、近隣の皆様のお力があってこそです。皆様ご協力ありがとうございます。



## 教育のこれから

熱海市長 齊藤 栄

先日、アタミ・ジュニア・グランプリがMOA美術館能楽堂で開催されました。小学生から大学生までのさまざまな分野で活躍した青少年たちを表彰するもので、私は表彰状を渡しながら、熱海には才能に恵まれた子どもたちが何と多いのだろうと大変誇らしく感じました。熱海の将来にとって教育の充実は大変重要です。なぜなら、今後の熱海の発展を支えるのはまさに彼らだからです。

法律の改正により、この4月から教育制度が大きく変わります。一番の変化は市長が教育に対してより深く関わられるようになることです。私はこれを機会に、「教育」と「福祉」と「産業」が一体となって子どもたちを支える仕組みを作っていきたいと考えています。市内を見渡すと、必ずしも家庭環境が恵まれた子どもたちばかりではありませんし、教育を行う前提としての雇用や経済的基盤を確保するのは産業だからです。

また、県や産業界に対しても熱海市の教育に積極的に関わってもらおうよう働きかけていきます。その一例として、県立熱海高校の魅力アップの取り組みを既に進めています。これまで県立高校の課題は県の問題と捉えられていましたが、熱海高校の抱える課題を、熱海高校や静岡県教育委員会だけでなく、熱海市教育委員会、熱海市行政、地元産業界、地元町内会などが一体となって議論しています。これは全国的にもまれな取り組みです。

これまでの常識や前例にとらわれず、教育の分野でも新たな挑戦を続けてまいります。